

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 9

《トビイロウンカ（秋ウンカ）の警報発表》

本年は、トビイロウンカの発生量が非常に多く、8月上旬調査でも約4割のほ場が要防除水準を超え、福岡県農林業総合試験場（福岡県病害虫防除所）から、7月14日の注意報に続き、8月7日付けで、警報が発表されました。

今後、ほ場内で急激に増加し「坪枯れ」の多発も懸念されますので、発生状況に十分に注意してください。

○トビイロウンカ発生状況（8月2半旬調査 県内46地点平均）

	本年	前年(多発年)
10株当たり払い落とし虫数(頭)	23.7	5.7
発生ほ場率(%)	67.4	50.0

・ 10
株 当
た り

払い落とし虫数は要防除水準を大きく超えており、
多発ほ場の払落とし虫数は350頭を超えるほ場も見られる。

〈防除上、注意すべき事項〉

【要防除水準】トビイロウンカ：幼虫の合計数（100株当たり）

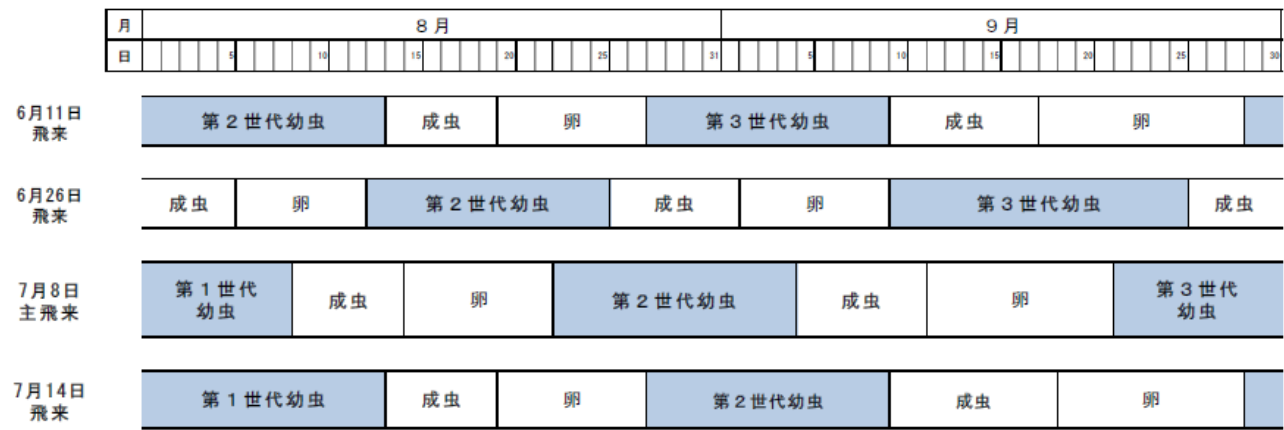
- ・ 飛来後第2世代(8月) : 100頭以上
- ・ 飛来後第3世代(9月) : 1,000頭以上

- ・ 早期水稻では、刈り遅れがないように適期収穫に努めましょう。坪枯れが発生し始めたら、可能な限り収穫を早め、減収の拡大を防ぎましょう。
- ・ 本年は複数回の飛来が確認され、様々な生育ステージのトビイロウンカが混在しています。（発生予想パターン図参考）8月～9月上旬の基幹防除を必ず徹底しましょう。基幹防除実施後も発生状況を確認し、発生が多い場合は補正防除を行いましょう。
- ・ 効果の高い箱施薬剤（ゼクサロン剤）を使用していても多発している事例がありますので、発生量の確認は必ず実施してください。
- ・ 薬剤散布時は、稲体への薬剤付着量向上のため、ほ場に水を張りましょう。
- ・ トビイロウンカは、感受性が低下している薬剤もあるため、薬剤の選定はJ Aなどと相談して決めましょう。アプロード剤は残効が長い特徴がありますが、近年、効果の低下も見られますので、必ず他のウンカ用薬剤と混用して使用しましょう。
- ・ 本年は、コブノメイガの飛来も多くなっていますので、多発の場合はウンカ類と同時防除を行いましょう。
- ・ 薬剤防除にあたっては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準

(使用時期、使用回数等)を確認し、適切な薬剤散布を実施しましょう。

(参考資料)

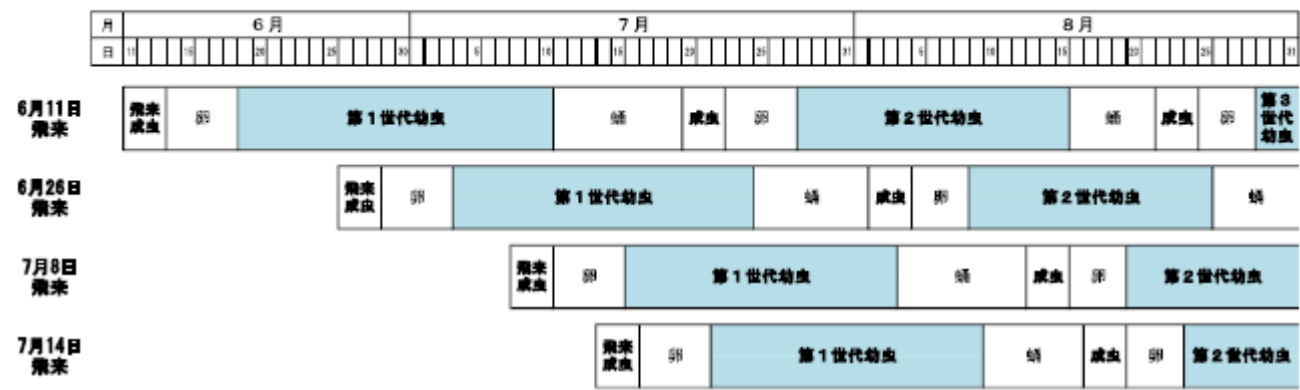
図1 トビイロウンカ発生予想パターン図



(注) (1) 发育零点12.0℃、发育上限温度28.5℃、发育停止温度33.0℃、有効積算温度(成虫期間100.0℃・卵期間109.4℃・幼虫期間189.4℃)
(2) 気温はアメダス太宰府を使用(8月6日まで実測値、以降は平年値)。

飛来に基づくトビイロウンカの発生予想パターン図(令和2年8月7日作成)

図2 コブノメイガ発生予想パターン図



(注) (1) 防除適期は発雄最盛期から1週間後である。
(2) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。
发育零点(卵13.0℃、幼虫12.5℃、蛹14.2℃)、发育上限温度28.5℃、发育停止温度33.0℃、有効積算温度(卵50.0℃、幼虫250.0℃、蛹90.0℃)
(3) 気温はアメダス太宰府を使用した。(8月6日まで実測値、以降は平年値)

飛来に基づくコブノメイガ発生予想パターン図(令和2年8月7日作成)